

「地域の中で輝く中高生の出番づくり」～地域への愛着心・自己肯定感の向上をめざして～  
 (岡山県社会教育委員の会議 提言の概要)

平成28年3月

子どもの健やかな成長には、地域から子ども(学校)への支援に加え、子ども(学校)から地域へ働きかける双方向の取組も大切であると考え、そこで、子どもが地域での役割や出番を持ち活躍することで、地域への愛着心や自己肯定感が高まり、本県の地域社会や教育の課題解決の一助になると考え、研究課題を設定した。

**I 地域社会や教育をめぐる現状と課題**

- |  |  |
|--|--|
| <p>1 地域社会の現状と課題<br/>人口問題、地方創生</p> <p>3 本県の地域と子どものかかわり<br/>教育支援体制の整備、中学生の地域行事への参加</p> | <p>2 社会教育の現状と課題<br/>教育県岡山の復活、地域社会の教育力の低下</p> <p>4 日本の若者の自己認識<br/>低い自己肯定感</p> |
|--|--|

**II 本研究の視点**

中高生の地域での活動が、地域への愛着心を高め、自己肯定感の向上を促すとともに、本県の地域社会や教育の課題解決にもつながると考え、中高生の地域での出番や役割づくりを進めるためのポイントや効果について、公民館、中・高等学校、市町村のNPO等団体にヒアリングや視察等を実施し、これらの担当者や中高生、地域の大人からの実際の声をもとに、活動の成果や課題等の事例分析を行った。

**III 事例紹介・事例分析**

本研究では、中高生の事業への参画が見られる8事例について、概要や中高生の担う役割について、深く調査した。

事 例	概 要
笠岡市陶山公民館 【ふれあいまちづくり納涼祭】	中高生が参画し、活力ある地域を作ることを目的として、毎年8月の第1土曜日に陶山小学校グラウンドで行われる納涼祭
岡山市立上南公民館 【体験型講座「みんなあつまれ」】	中学生の自主性、協調性、地域とかかわる力を育むこと等を目的として、夏休みから2月まで毎月行われている公民館の主催講座
県立矢掛高等学校 【やかげ学】	地域での体験活動をとおして、達成感や満足感を持たせ、主体的な進路選択に結びつけることを目的として、町の歴史や文化などを学んだ後、長期的に職場実習を行う学校独自の教科
赤磐市立高陽中学校 【小学校への出前講座】	生徒に役割と責任の自覚を持たせることを目的とした、携帯・スマホ持込追放推進委員会による、学区内の小学校への出前講座
粟井春日歌舞伎保存会 【粟井春日歌舞伎】	地元に伝わる文化継承を目的とした、地区の全6年生、帰郷青年層が出演する地下歌舞伎
やかげ小中高子ども連合(YKG60) 【子どもが主体の地域活動】	地域に誇りや自信を持って語れる子の育成等を目的とした、矢掛町内の小中高生による地域の課題の解決やブランドづくりの活動
岡山市立竜操中学校 【赤田町内夏祭り】	地域を盛り上げることを目的として、様々な世代が参加し、毎年8月に行われる岡山市赤田地区の夏祭り
県立倉敷南高等学校 【倉敷町衆プロジェクト】	倉敷「町衆」の精神を引き継ぎ、市民の一員として自覚を持った生徒の育成を目的とした「倉敷」をテーマとした活動

## IV 研究をととして

事例研究を通して、様々な工夫により、中高生の地域への参画がスムーズに促され、中高生の態度や地域に対する心情に変容が見られたり、活動を支える大人にも意識の変化があることが分かった。

### 【事例から得られた活動の工夫等】

- ①話し合いの時間を大切し、自分の考えをしっかりと表現する機会を設定する。
- ②振り返りカード等で文章化する等、活動を振りかえる機会を設定し、自分の変化や成長を実感させる。
- ③対象となる子ども全員が参加できるように、演目や指導の工夫を行ったり、過去に経験した若者に再度、参加を促す等、世代間のつながりづくりを意識する。
- ④子どもが主体となって様々な活動ができるように、大人は見守りやサポートに徹する。
- ⑤誰もが楽しめる身近なイベントに中学生が活躍する場面を設定する。
- ⑥学校では、地域での活動を年間指導計画にはっきりと位置づけ、継続的に実施する。
- ⑦小中高校と縦に連携することで、身近な先輩として活躍できる機会を設定する。
- ⑧地域課題を考える活動を通して、課題を「自分に深くかかわる事」として意識させる。

### 【事例研究から分かったこと】

- ①地域の大人に期待され、賞賛されることによって、中高生は、自分の存在や役割を肯定的に捉え、自己肯定感が向上する。
- ②地域活動を経験した中高生は、地域への愛着心を持ち、地元就職したり、進学のため地元を離れた中高生が若者になり帰郷している。
- ③地域の大人にとっては、中高生の持つ能力や可能性に触れることで、中高生は「支援される者」という意識から、地域をともに創りあげる「パートナー」に変容している。
- ④子どもの成長を地域全体で支え、意図的、計画的、そして積極的な取組を行うことが、地域で活躍する人材育成につながる。

## V 主体別の提言

### 1 公民館関係者へ向けて

- ・地域の子どもが小学生の頃から公民館との関係を作り、身近な場所にしておく。
- ・活動の中に、地域から賞賛される場を意図的に設定する。
- ・学校や地域の諸団体と一層連携・協働する。

### 2 学校関係者へ向けて

- ・地域の人的、物的資源を把握し、地域連携担当教職員を中心に地域の人材や団体、社会教育施設等と連携・協働する。
- ・地域連携担当教職員には、社会教育主事等の専門的知識を持った人材を充てるのが有効である。
- ・地域活動等をカリキュラムに位置づけ、年間指導計画に反映する。
- ・キャリア教育として地域との協働による地域課題の解決等に取り組む。

### 3 地域住民組織・NPO団体等へ向けて

- ・地域住民組織が実施する既存の活動の中に参画の場を設定する。
- ・各団体が持つ専門性やネットワークを生かし、団体が主体となって活動に取り組む。
- ・学校と連携し、地域課題の解決等、学校のキャリア教育や地域貢献活動と連携する。

### 4 行政へ向けて

- ・具体的な活動モデルや最新情報等を地域住民や社会教育関係者に示す。
- ・地域の伝統文化の継承に、活躍の場を作れるよう保存会等へ支援をする。
- ・活動がない場合は行政、社会教育主事等を核に、地域と連携して、新しい活躍の場を創出する。
- ・社会教育だけでなく、首長部局と十分連携を図りながら、総合的に推進する。